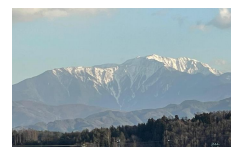


ああ 遠くの空は 晴れている



NO20

南箕輪村教育委員会

広報みなみみのわ 令和8年6月号に掲載されている「あたたかな まなざしで」No4を紹介します。今回の執筆は、南部小学校 柄澤武志校長先生です。

【発行の趣旨】

村報「みなみみのわ」に、子育てに関する情報提供コーナーを設け、子どもにとって大切な学びや経験について考えたり、日頃の子どもとの関わり方を振り返ったりする契機にしたいと思います。小中学生の子育て中の保護者に限らず、これから保育園に入学するお子さんの保護者、子育ては終わったが改めて子育てについて考えていただける世代の方々からお年寄りの方々まで、**村民全体で子育てについて考え合うコーナー**を創っていかれたらと思います。

(次回予定) 令和8年 8月号 村教委 唐澤 豊 指導主事が執筆します。

「地域の中で 仲間と共に 自分を磨く」ために、子育てについてみんなで考えていきましょう

あたたかな まなざしで

No.4

あいさつしてくれて「ありがとう」

南部小学校 校長 柄澤 武志



毎朝、校門に立つて登校してくる子どもたちに「おはようございます」と声をかけるのが、私の大切な日課です。

昨年度の学校アンケートで「自分から進んであいさつをしていますか？」と尋ねたところ、子どもたちの88%が「できている」と答えた一方、保護者の皆さんの評価は58%にとどまりました。この差は、大人が期待する「よいあいさつ」と、子どもたちが思っている「あいさつ」の捉え方に違いがあるからかもしれません。

では、そもそもあいさつは何のためにするのでしょうか。以前子どもたちと一緒に考えてみたことがあります。あいさつの起源や役割を調べていくと、大切なのは言葉そのものがわかります。あいさつを交わすことで、相手に安心感を与え、「自分を認めてくれている」「気にかけてもらっている」という幸せな気持ちを届けることができるのです。だからこそ、あいさつには良いチーム（地域や学校）の土台をつくる力があるのでしょう。

毎朝、子どもたちの反応は実に多様です。遠くから元気な声を届けてくれる子、立ち止まって丁寧に

お辞儀をする子、帽子を脱いで返してくれる子、笑顔で会釈する子、小さな声だけど「おはようございます」と返してくれる子。中には体をぶつけてくる子もいます。たとえ元気がない朝でも、気持ちののらない朝でも、「私」という存在に対して何らかの反応を返してくれる。それだけで、立派なプラスのメッセージだと感じます。そんな姿がうれしくて、私はいつからか、あいさつを返してくれた子に「ありがとう」と伝えるようにしています。

一日の始まりに何度も「ありがとう」と言っていると、不思議と私自身も自然に笑顔になり、朝からご機嫌で過ごすことができます。

皆さんも、子どもたちの小さな反応を「あたたかなまなざし」で受け止めてみませんか。形にこだわらず、心が通じ合った瞬間に「ありがとう」と返してみる。そんなやり取りが、幸せな気持ちを広げてくれると信じています。



【このコーナーは、偶数月に、教育委員会スタッフと小中学校の担当者が交代で執筆していきます】